

第2章 目指す環境都市像

第1節 みんなでめざすまちの姿

環境に関しては、中長期的な視点で施策を推進することが重要とされており、本計画では、2050年の理想の環境都市像を設定し、将来像の実現から逆算し、バックキャストで今後10年間の取組みの方向性を定めます。

理想の環境都市像の実現には行政だけでなく、市民、事業者などあらゆる主体の行動・連携が不可欠であることから、「みんなでめざすまちの姿」とします。また、その実現に向け、全ての環境施策を進めていくうえで大切な統合的・横断的な3つの行動指針を設定しています。

<みんなでめざすまちの姿>

人・まち・自然が調和し、心豊かに住み続けられる アジアのモデル都市

～みんなでめざすまちの姿に向けた行動指針～

日々の暮らしや営みの中に環境への配慮が浸透しているまちを目指します

豊かな自然の恵みや都市資源を活かした循環のまちを目指します

環境への取組みが都市の魅力を高め、持続的に発展するまちを目指します





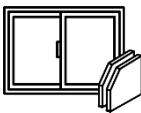
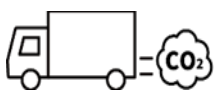




[考え方]

- 福岡市は、恵まれた自然と、まちやそこに住む人々が調和し、アジアをはじめ世界中から様々な人や物を惹きつけ、賑わいと活気ある都市として発展してきました。
- 環境危機が顕在化する中、将来にわたり持続的に発展していくためには、自然資本を基盤として、環境・経済・社会の好循環を創り出すことが重要です。
- そのため、従来は経済の制約とされていた環境の取組みを力強いまちの成長への鍵として、都市でありながら身近に自然を感じ、人が生き生きと暮らせる快適な環境に磨きをかけ、心豊かな暮らし（ウェルビーイング）を実現するとともに、アジア諸国をはじめ世界の都市環境の向上に引き続き貢献しながら、住み続けられるまちを将来世代へ引き継いでいきます。

第2節 みんなでめざすまちの姿の実現に向けた行動

ここでは、市民や事業者が取り組む行動例を示します。今すぐできることから、段階的に取り組めること、また、今回お示ししていること以外にもできることは様々あります。日常生活や事業活動において、一人ひとりができることを考え、一緒に行動していきましょう。

市民が取り組む行動例

	取組み	暮らしのメリット
衣	今持っている服を長く大切に着る 	現在よりも1年長く着ることで、日本全体として4万+以上の廃棄量の削減につながります。衣服の購入費を節約でき、自分の服に愛着もわきます。
	食事を食べ残さない 	国民1人あたりに換算すると、毎日お茶碗約1杯分の食べものが捨てられています。 ごみの廃棄を減らせるだけでなく、計画的な購入は、食費の節約にもつながります。
食	地元産の食材を選ぶ 	食材の輸送にかかるエネルギー消費量を減らすことができます。 地元の農家を応援でき、新鮮な食材を食べることができます。
	省エネ家電に買い換える 	省エネ性能が優れた家電に買い替えることで電気代の節約につながります。 例えば、冷蔵庫の場合、10年前の製品と比べて電気代が年間約6,000円の節約になります。
住	住宅窓の改修 	熱の出入りの50%以上は窓などからです。 二重サッシや複層ガラスへ交換すると電気代が年間約16,000円の節約になります。
	宅配サービスを1回で受けとる 	国内の再配達で排出されるCO ₂ の量は年間で福岡ドーム約110杯分にもなります。 置き配や宅配ボックス等の活用により、1回で確実に受け取ることができ、非接触での受取も可能になります。
ごみ	ごみを減らす 	ごみの処理には多くのエネルギーがかかります。マイボトルの利用や資源物の分別などに取り組むことで、ごみの減量だけでなく、家計の節約にもつながります。
移動	徒歩や自転車、公共交通で移動する 	1人が1km移動する際のCO ₂ 排出量は自動車が多いです。 徒歩・自転車での移動は、健康増進につながるほか、自動車の利用を控えることでガソリン代も節約できます。
	エコドライブ カーシェアリング 	やさしい発進や加速・減速の少ない運転を心がけることで、燃費の改善や安全運転につながります。 マイカーを所有せずにカーシェアリングを利用することで、走行距離が減少し、ガソリン代も節約できます。
	電気自動車の購入 	ガソリン車とは異なり、走行中のCO ₂ 排出量をゼロにします。また、停電時の非常用電源としても活用できます。

事業者が取り組む行動例

	取組み	概要
脱炭素	環境にやさしい働き方を推進する	WEB 会議、オフィスカジュアルでの勤務などの働き方を取り入れる
	CO ₂ 排出量の見える化に取り組む	事業活動にかかる CO ₂ 排出量を算定し、削減を行う また、環境経営情報を適切に開示する
	省エネルギー化を推進する	LED 照明や高効率空調機器の導入など、エネルギーの効率的な利用を推進する
	再生可能エネルギーを導入する	太陽光発電設備の設置や再生可能エネルギー由来の電力を選択する
生物多様性	緑を保全・創出する	屋上緑化、壁面緑化などに取り組み、生きものにやさしい空間を創る
	生物多様性に配慮した事業活動を推進する	製品の原材料の調達等は、生態系への影響が少ないものを検討する
資源循環	食品廃棄物の削減に取り組む	商習慣の見直しを含む食品ロス*の発生抑制や、発生した食品廃棄物の資源化を進める
	分別や資源化がしやすい商品開発に取り組む	生産段階から再利用などを視野に入れて設計し、新しい資源の使用や消費を抑える
安全	大気環境や水質の保全に努める	法令の規制を遵守し、事業活動に伴う大気汚染や水質汚濁の防止対策を講じる
地域	地域との共働により環境意識の向上に貢献する	地域の環境イベントへの積極的な参加や、場や機会等の提供に協力する

※暮らしのメリットに記載の数値等は計画策定時点の情報

第3節 環境施策の展開（施策体系）

目指す環境都市像の実現に向け、分野横断的に取り組む必要がある「重点施策」を2つ、重点施策と連動し、環境課題の柱として着実に取り組む必要がある「基本施策」を5つ設定し、施策を展開していきます。

	節	項
重点施策	1	【行動変容】 環境行動を実践するまちづくり
		1 環境にやさしい行動の輪を広げる 2 環境に関する学びの輪を広げる
	2	【事業者連携】 環境経営を実践するまちづくり
		1 環境にやさしいビジネススタイルを定着させる 2 環境と経済の好循環を創る
基本施策	1	【脱炭素】 カーボンニュートラルを実装したまちづくり
		1 温室効果ガス排出量を減らす 2 気候変動によるリスクに備える
	2	【循環経済】 地球にやさしい循環のまちづくり
		1 ごみの減量と資源化を進める 2 ごみの適正な処理を進める
	3	【生物多様性】 多様性にあふれた自然共生のまちづくり
		1 生物多様性を守り、活かす 2 水と緑を守り、活かす
	4	【生活環境】 安全で良質な生活環境のまちづくり
		1 安全・安心に暮らせる生活環境を確保する 2 美しく、住みよい生活環境をつくる
	5	【広域連携】 九州・アジアとつながる環境協力のまちづくり
		1 市域を超えた環境協力を進める 2 環境技術を活かして国際社会に貢献する

分類	
① ライフスタイルの転換の促進	② 環境情報の効果的な発信
① 環境保全・創造に向けた人づくり	② 環境保全・創造に向けた地域づくり
① ビジネススタイルの転換の促進	
① 民間活力の活用	② 環境ビジネスの拡大
① 都市の特性を踏まえた脱炭素戦略の策定及び推進	② 家庭部門の脱炭素化
③ 業務部門の脱炭素化	④ 自動車部門の脱炭素化
⑤ 公共施設等の脱炭素化	
① 温暖化による影響の回避・軽減	
① 家庭ごみの減量・資源化	② 事業系ごみの減量・資源化
① 適正処理の推進	② 廃棄物処理体制の構築
① 生物多様性の保全・回復・創出	② 生物多様性の恵みの活用
③ 環境配慮の促進	
① 水辺環境の保全、水資源の有効利用	② みどりの保全・創出・活用
① 安全・安心な生活環境の保全	
① 景観の保全・創出	② 環境美化の推進
① 福岡都市圏との連携	② 九州・国内各地域との連携
① 国際貢献・国際協力	